

ペットの災害対策の推進について～令和6年度の事業報告と今後の対応～

動物愛護センター ふれあい課、そうだん課、健康福祉部 食品・生活衛生課

○阿部 理恵、石黒 奈央、大笹 範子、藤森 令司、松澤 淑美、田玉 栞、中村 克敏、片井 理恵、
今井 基晴、小林 雅巳、小林 正直、矢島 康宏、須田 正典、及川悦子

1 はじめに

災害大国日本において頻発する地震等の自然災害は、いつ起きてもおかしくない状況である中、ペットの災害対策は、ペットの命を救うだけでなく、飼い主たる人の命を救うためにも、放浪動物による公衆衛生上の問題を防ぐためにも重要である。

本年度、長野県においては、6月の「動物の正しい飼い方普及月間」において、「災害発生！あなたとペットはどうするの」を重点テーマとして掲げ、動物愛護センター（以下、センターという）としても年間を通してペットの災害対策に係る諸事業を実施した。

本年度の対応実績と今後の対応について考察したので報告する。

2 令和6年度におけるペットの災害対策事業

(1) 公開講座「ペットの災害対策について考えよう」

日時 令和6年6月30日 13:30～15:00

場所 長野県動物愛護センター レクチャールーム

講師 動物愛護センター職員

参加人数 48名、報道機関1社1名

ペットの災害対策はなぜ必要なのか、飼い主だけでなく、ハローアニマルサポーター、長野県災害時救護ボランティア、市町村の担当者など、様々な立場の方々に参加いただき、考えながら学んでいただいた。

「人とペットの災害対策ガイドライン」からそれぞれの役割を確認いただき、ホームページ公開の県内市町村の避難所におけるペットとの同行避難時の受入れ態勢や市町村の同行避難訓練の様子など幅広く伝えた。

(2) 動物愛護フェスティバル特別講演「あなたとペットの災害対策を考える」

主催 動物愛護フェスティバル2024 インこもろ実行委員会（構成：長野県、小諸市、長野県動物愛護会、
（一社）長野県獣医師会）

日時 令和6年9月21日 13:30～15:15

場所 長野県動物愛護センター レクチャールーム

講師 健康福祉部 食品・生活衛生課職員、動物愛護センター職員、長野県動物愛護会員

参加人数 約30名、報道機関2社2名

災害時の避難を想定した、平時におけるクレートトレーニングや健康管理、動物用避難セットの準備などの必要性、避難所におけるスターターキット配備の案内、東日本台風災害における県内自治体の対応についての講座と飼養犬同伴の愛護会員による動物用避難セットの展示・説明と段ボール製の簡易ケージを用いたクレートトレーニングを実演していただいた。

(3)部局会見「ペットの防災手帳・健康手帳を作成しました」

日にち 令和6年11月14日

場所 長野県庁 会見場

対応 動物愛護センター所長

長野県動物愛護管理推進懇談会において、委員より、お薬手帳のようなイメージの動物の健康手帳を気軽にホームページからダウンロードできるようにしたらよいのではないかとのご意見を受け、災害時のペットに関する情報共有にも役立つ形で、センターにおいて作成・ホームページに掲載したことを報道発表した。避難時に持ち出す動物用避難セットのデモ版(犬用・猫用)及びペットの避難所受け入れ態勢整備のためのスターターキットのデモ版貸出を開始した旨の報道対応も併せて実施した。

(4)公開講座「ペットと同伴避難してみよう」

日時 令和7年1月26日 13:30～15:30

場所 長野県動物愛護センター レクチャールーム

講師 あさま防災カルチャークラブ 武藤千春氏、動物愛護センター職員

参加人数 40名、犬12頭、猫5頭、報道機関3社4名

ペットの災害対策に関する公開講座では、センター初の試みで、犬猫同伴の飼い主にも参加いただき、体験型の講座を開催した。

前半の基調講演では、自身のラジオ番組で防災・減災の情報発信をしている防災士であさま防災カルチャークラブの発起人でもある武藤千春氏にペット防災についてご講演をいただき、後半は、犬猫同伴飼い主主導で、スターターキットを用いた避難場所設営を体験していただいた。スターターキット内の指令書(ミッションカード)に基づき、指示確認・指示係、犬猫見守り係、案内看板設置係等の役割を決めて設営していただいた。座学会場であったレクチャールームをペットの避難スペースが設営できるまでの一時待機場所とし、別の2室に犬猫用のクレート、ケージを設置し、それぞれ避難場所とした。

その後、設営した避難場所に自身の犬猫を避難させ、避難生活においてトラブルにならないためのルールの話し合い、動物用避難セットの内容等についての情報交換などをしていただいた。

また、人の避難生活体験の場として、小諸市役所より拝借した避難所用簡易テント、簡易ベッド、段ボールベッドを設置し、試用いただいた。

屋内におけるペット避難スペース確保の啓発として、屋根のある屋外にブルーシートを敷いてクレートを置き、極寒の真冬の最中、室内飼育のペットには屋外の避難場所は困難であることを体感いただいた。

(5)その他

「ペットの災害対策について」の県政出前講座等の依頼により、3件(参加者計65名、犬7頭)の講師対応を実施した。

3 考察

今後の災害発生時に備え、県庁、保健所、センター、市町村、飼い主、ボランティア等、それぞれの立場で対応を進めることが必要である。災害発生時の動物救護対策の拠点であるセンターとしては、ペットの飼い主に向けて、発災時には速やかにペットを連れて避難ができるように、平時のクレートトレーニングや健康管理、動物用避難セットの準備などの啓発の推進が本年度に引き続き、必要と考える。

公開講座「ペットと同伴避難してみよう」において実施した避難場所設営体験では、参加した飼い主から、「避難場所設営までの間、クレートに入っても心配で近くを離れたくない」、「犬猫は車に置いておきたい」という意見や、犬が用意したクレートになかなか入らないケースも見られた。引き続き、飼い主に向けてのクレートトレーニングなど適正飼養の啓発、避難所への避難が困難な犬猫の飼い主には、自助の取組みとして預け先の確保を啓発していくことも必要である。ペットの飼い主においては特に、車中泊避難も選択肢の1つとしたい声が多い中、人のエコノミークラス症候群予防の観点から一概に禁止とするのではなく、車の広さ、搭乗人数などから認めていく検討も必要と考える。当該公開講座では、参加できる犬猫の条件として、クレート内でおとなしくしていただけること、1年以内の混合ワクチン接種、犬では、市町村へ登録済であること、年1の狂犬病予防接種済であることを求めて参加いただいた意識の高い飼い主あったこともあり、トラブル等は無かったが、今後は、犬猫を飼う上での必要なルールに無頓着な飼い主への普及啓発が課題である。災害時に備えたクレートトレーニングや室内飼育の推進は適正飼養の向上につながり、動物に関する住民からの苦情を減らすことになると思う。

市町村に向けて、開設する避難所で実行性のある動物受け入れ態勢確保の働きかけも重要である。現在、9割のペットは屋内飼育されていると言われる(令和5年度(一社)ペットフード協会全国犬猫飼育実態調査)中で、ペットが屋外での避難生活を余儀なくされる想定では、ペットを連れた飼い主の速やかな避難にはつながらないと考える。ペットの災害対策を理解し、平時からの準備を実施している飼い主であれば、ペットを連れて速やかに避難できるよう、避難所におけるペットの室内避難場所の確保を市町村に働きかけることが必要である。併せて、発災時には、人命救助や人のための対応に追われる市役所職員に代わり、飼い主達が共助の取り組みによって自ら、避難先での避難生活を開始することができる基盤として、スターターキットの避難所毎の配備の普及啓発を進めたいと考えている。

今後は、本年度実施したスターターキットを用いたペット同伴避難体験の講座を、県内市町村の避難所となる施設において実施を検討していきたい。

もって、災害時におけるペットとその飼い主の命を救うこと、また、それにより地域における放浪動物による公衆衛生上の問題の回避につなげるとともに、災害への備えにより適正飼養が向上し苦情を減らすことにより保健所の負担軽減にも貢献していきたい。